

必要な使用資材・工具、人数		1箇所当たり (直径2m)
●土のう→240袋	●鋼杭→30本 (φ15mm、長さ1.2m)	
●ビニールシート→1枚 (1,000×2,000)	●支え用の木杭→4本 (100mm、長さ1.2m)	
●ひも (3000番) →2本 (100mm、長さ2m)	●巻→1本 (φ10mm、長さ1.5m、長さ200cm)	
●ひも (1000番) →2本 (100mm、長さ2m)	●土砂→2m ³	
(工具)		
●スコップ→4丁	●一輪車→2台	
●ハンマー (鉄矢) →1丁	●カマ (カッター) →1丁	
●たこづち→2丁		
(必要人数) 25人		



①釜の大きさ

- 釜の大きさは、漏水口の大きさ、噴出量にもよるが、通常噴出口を中心に直径2~4m程度とする。

②土のうの並べ方・積み方

- 釜の型となる土のうの積み方は、噴出口を中心に内側より、4段、3段、2段、1段と段々になるよう積み上げる。径が小さい場合は、3段、2段、1段でもよい。



- 土のうの並べ方は噴出口を中心に、内側は長手方向に並べ、外側は小口方向に並べる。

- 次に外側2列目及び3列目は土のうのしぼり口を外に向け小口方向に並べる。並べ方は、平面的に前列の土のうの合わせ目に次の土のうの中心がくるように並べる。この時、1列目長手積み土のうと2列目小口積み土のうの間を約30cmあけ、土を詰め十分に締め固める。また、土のうの継ぎ目(長手積み)及び合わせ目(小口積み)にも十分土を詰める。



③各段の施工

- 同じ手順で各段毎に施工する。



④土のう積みめの完了等

- 同じ方法・手順で内側長手積み土のうが2段、3段(4段)と所定の高さとなるよう積み上げ、外側小口積みは、内側長手積みより外に向かって1段ずつ少なく(低く)なるように積む。この場合、積み上げる土のうの重ね合わせは、内側長手積み、及び外側小口積みともにレンガ積み(下段土のうの継ぎ目合わせ目のところを上段土のうの中心がくる重ね方)とする。

⑤支え杭の打ち込み

- 内側長手積み土のうが3段以上となる場合は、釜を安定させるため直径約15mmの鉄筋杭等(木杭・竹杭)を打ち込む。
- レンガ積みとなっている土のう1個に2本の割合で打ち込む。この場合、側面から見て各土のうそれぞれ2ヶ所杭が貫通するように打ち込む。



⑥排水パイプ(樋)の取り付け

- 次にあふれ出る水を流す(処理)するため強化ビニールパイプ等により、長さ4m程度の樋を取り付ける。
- この場合、排水がスムーズになるよう内側長手積み土のうを1段低くし、その位置にパイプを置く。さらにパイプの上におさえ土のうを乗せる。
- 樋の支えとして先端方向に2ヶ所程度板により支える。杭打ちは杭がX状になるように打ち、交差部を結束し、その上に樋を置く。樋を固定させるため×状支え杭にひもで8の字型にわたし最後に「いぼ結び」で結束をする。



⑦排水落下付近の施工

- 落下水による飛散・深掘れを防ぐため、水が落ちる場所にビニール等シートを地面に敷く。シートのあおり防止のため4角に土のうを置き、又、落下地点にも2~3個ほど土のうを置く。(しぼり口は流れに下流向き)

注意事項

- ★ 内側長手積み土のうはより安定が必要なので、重ねがうまくいくように積む。
- ★ 釜段内に貯えられた水が保たれるよう、壁に詰めた土は十分締め固める。なお、不十分な場合は釜段の内側全面にビニールシート等を張ることもある。

